

本会のダイバーシティ推進に向けて

齊 藤 準 〈日本物理学会 ダイバーシティ推進委員長 jsaito@obihiro.ac.jp〉

第81期(2025年)からダイバーシティ推進委員長を拝命しております。本委員会は、英名の Diversity, Equity, & Inclusion Committee にも示されるように、本会ひいては日本の物理学コミュニティに多様な人々が参画し (diversity)、機会や支援が公正に行き届き (equity)、個々人が能力を発揮できる包摂的な環境が提供される (inclusion) ことを目指した活動を行っています。そのための情報提供、調査、連携、アウトリーチなど、具体的な取り組みはウェブページ^{*1}でご覧になれますので、ぜひご参照ください。

2002年設立の男女共同参画推進委員会を前身とする経緯から、とりわけ注力しているのは男女に関わるダイバーシティの推進です。本会の女性会員比率は、2002年の4%程度から、現在までのおよそ20年の間に7%弱へと上昇しています。同期間に全体の会員数は20%程度減少し、女性会員数だけで見れば20%弱程度上昇しています。女性理事比率については、同期間で9%から20%程度へと上昇しています。したがって、本会における男女のダイバーシティは、ごく緩やかにではありますが推進されてきていると言えそうです。もっとも、大学学部的女子学生比率が5割、大学院博士課程では3割であることを考えると、まだまだ望ましい値には至っていません。

物理系学会の男女のダイバーシティ推進は、各国に共通する課題です。本委員会は、国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)やアジア太平洋物理学連合(AAPPS)のWomen in Physics(WIP)活動等における連携を通じて、この問題に取り組んでいます。最近では、昨年10月に中国海口で開催された第16回アジア太平洋物理会議

(AAPC16)のWIPに、本委員会から4名が参加し、各国の情報共有と議論をしてきました。女性比率は、韓国20%、フィリピン(入会者)25-50%、シンガポール10%弱、台湾10%、インド10-15%、インドネシア36%、マレーシア(会員ではなく学生や研究者)40-50%とさまざまであることが報告されました。その解釈には、所得や任期、職階等も踏まえた各国の社会的・文化的・政治的違いも踏まえた留意が必要ですが、それでも、これらの数値と比べると、やはり日本の状況は非常に後れを取っていることがあらためて浮き彫りとなりました。

ダイバーシティの推進状況を表すには、全体の女性比率だけでは十分ではありません。本会らが設立を呼びかけ、現在は本委員会が窓口となり会員として参加している男女共同参画学協会連絡会^{*2}は、会員数調査やアンケート調査により、女性比率の改善している分野においても上位職ではまだまだ女性が少なかったり、所得や子供の数、任期、昇進などの面で女性に不利な格差が存在していたりするなどの実態を明らかにしています。同連絡会はこうした調査結果等を基に、政府・関係機関へのダイバーシティ推進を求める提言・要望を行っています。研究者のキャリアにとって重要な選択的夫婦別姓制度に関するアンケート調査の実施や、その結果の国会における報告・提言など、昨年の活動の様子は本委員会からのご案内でご記憶の会員もいらっしゃるかと思います。本年10月には5年ぶりの大規模アンケート調査が予定されていますので、会員みなさまにはぜひ、ご協力いただけますと幸いです。同連絡会はこれらのほか、「無意識の(アンコンシャス)バイアス」コー

ナーなど大変参考になる情報を上記サイトで数多く発信していますので、あわせてご覧になってください。

物理学コミュニティにおける支援や環境改善とあわせて重要なのは、これからコミュニティに加わる女子生徒・学生へのアウトリーチです。本委員会は、一部は物理教育委員会とも協働で、「女子中高生夏の学校(夏学)」や「女子中高生のための関西科学塾」等の活動に継続的に協力しています。これらは理系分野への進学に興味のある女子中高生がターゲットですが、例えば国際教育到達度評価学会(IEA)のTIMSS等いろいろな調査が示唆するように、いわゆる理科離れにおける男女差の強まる中学生へのアプローチが特に重要と考えられます。もちろん、物理に進学しこれから大学院で研究を始めようとする女子学部学生への支援も必要でしょう。その際に鍵となるのは、女子生徒・学生の物理分野への進学や就職の妨げとなっているアンコンシャス・バイアスの克服です。昨年の年次大会期間中に実施したランチョンミーティングでもこのことをテーマに議論を行いました。本委員会では現在、それらも踏まえた新しいアウトリーチ企画を検討しているところです。

女性の参画が少ないということは、物理のコミュニティが優秀な人材候補を半数近くも損失しているということです。本委員会にできることは限られるかもしれませんが、女子生徒・学生が物理をより目指しやすくなり、さらに多様な会員が活躍するための支援に今後も取り組んで参りたいと思いますので、引き続きご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(2026年5月17日原稿受付)

^{*1} <https://www.jps.or.jp/activities/iinkai/dei/top.php>

^{*2} <https://djrenrakukai.org/>

会誌編集委員会注：直近の記事として日本物理学会誌79, 135, 303, 512, 567(2024)に関連記事あり。